

INTERVIEW

東京北社会保険病院 総合診療科 医長
南郷栄秀先生



【プロフィール】 南郷栄秀先生 平成10年東京医科歯科大学医学部卒業、虎の門病院にて研修後、東京医科歯科大学医学部附属病院呼吸器科、同大学感染分子制御学分野を経て、虎の門病院分院内科総合診療科に勤務。平成19年に東京北社会保険病院に赴任、東京医科歯科大学医学部臨床准教授、岡山大学医学部非常勤講師、医師国家試験試験委員を兼務、現在に至る。専門は総合診療、EBM、医学教育。日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医、日本プライマリ・ケア連合学会 研修指導医・評議員、日本旅行医学会 認定医。

地域医療全体の パフォーマンスを上げる —そんな研修を目指して

聞き手：山田隆司 公益社団法人地域医療振興協会 地域医療研究所所長

新しい総合診療科の立ち上げにかかわって

山田隆司(聞き手) 今日は東京北社会保険病院に南郷栄秀先生を訪ねました。先生には地域医療振興協会の中核的な病院で研修、教育を担当していただいておりますが、ここに至るまでの先生の経歴をまずはお話しいただけますか。

南郷栄秀 私は平成10年に東京医科歯科大学を卒業

し、はじめは研究者になりたいと思っていました。自分自身に喘息があったので、呼吸器内科専門医になって研究をしよう。喘息は当時、炎症が病態のメインらしいということが分かり、吸入ステロイド剤が発作予防の基幹薬として新しく使われるようになってきたころでしたから、

アレルギー関係の研究をしたり、喘息という病気の完治を目指すような研究ができたりしたらいいなと思ったのです。高校生の時から医学に限らず何らかの研究者になりたいと考えていたのですが、医学部に入ったからにはやはり、患者さんを実際に診て患者さんの問題を考え、そこから研究に発展させたいと思うようになっていました。それで、研究の道に進む前に、まずは一通り医者として仕事ができるように研修をしようと考えたのです。

当時はまだ9割以上が大学に残る時代でしたが、大学を飛び出して虎の門病院で3年間の研修を受けました。

山田 それは内科の研修ですか。

南郷 一部麻酔科があったり消化器外科があったりしましたけれど、ほぼ内科ですね。2年間の初期研修、プラス3年間の後期研修のうちの1年間だけそこで研修し、4年目に大学に戻りました。もともと呼吸器内科の医局に所属していて3年の研修終了後に戻る約束になっていたのですが、戻ってきたら、大学の組織改変があって半年で辞めざるを得ませんでした。4年目の残りの半年間は免疫学の教室に入りましたが、一人で試験管を振って黙々と作業するのは性に合いませんでした。やはり患者さんと話しているほうが楽しいですね。それで5年目はどうかと考えていたところ、虎の門病院の神奈川県川崎市にある分院で新たに総合診療科を立ち上げるので来ないかというお誘いをいただきました。卒後2年目の終わりごろにEBM(根拠に基づいた医療)と出会ってかなり衝撃を受けていたのですが、総合診療の分野というのはEBMと親和性が高いですよ。ですので面白そうだなと、それで5年目から虎の門病院分院に勤務しました。虎の門病院の本院は大学病院のようにすべての専門診療科が揃っていて、総合診療で診るべき対象となる患者があまりいません。一方分院は、慢性期の病棟という位置付けでした

が、地元の要請で外来を開くことになったという経緯があり、逆にすべての専門診療科を揃えることができないので、本院にはない総合診療科を新たに立ち上げることになったのです。

山田 分院は何床の病院ですか？

南郷 300床です。

赴任した総合診療科には、内分泌を専門にする部長と自分しかいませんでした。その部長と、循環器専門の次の部長から、それぞれの専門分野についてはよく教えていただきましたが、それ以外のことは独学で学ぶしかありませんでした。結局5年間いて、それほど忙しくなく体力的には楽でしたが、牛歩のような成長だったので同期の他の医師よりも能力的に劣っているのではないかと悩み、精神面ではずい分苦勞しました。このころ心の支えになってくれたのは、院外で一緒にEBMを学んだ薬剤師さんを中心とする仲間の存在でした。

山田 その時はもう研究にはこだわってはいなかったのですか。

南郷 実験といった類の基礎研究へのこだわりは全然なかったですね。ただ、この5年間に、母校の医学教育の教室から呼んでいただいて学生教育に携わるようになっていたり、自分自身でも学生対象のEBM勉強会を立ち上げたりしました。それから、月1回診療所で診療をする機会がありました。そこで初めて往診も経験したのですが、訪問したお宅の床の間にたくさん薬が積んであるのを見て「こんなところで生活しているのか」と衝撃を受けたこともありました。学生時代に総合診療の講義がなく、家庭医という存在すら知らなかったのですが、往診を通じて地域医療への興味がわいたこともあり、虎の門分院のあとには父の診療所を継ごうかなと考えていました。

山田 内科ですか？

南郷 父はもともとは産婦人科医だったのですが、今はもう産科はやっていませんし、婦人科もメインではなく、ほとんどが内科・小児科です。